

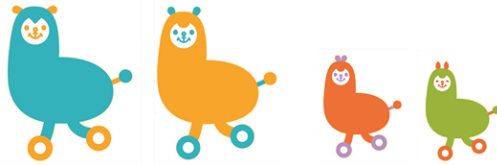
# モビリティ・レジリエンス・アライアンスご紹介

～災害時に車で困らない社会の実現に向けて～

2021年7月28日

一般社団法人日本カーシェアリング協会

(モビリティ・レジリエンス・アライアンス 事務局)



# モビリティ・レジリエンス・アライアンスの概要



「災害時にクルマで困らない社会を作る」という趣旨に賛同する企業・団体・自治体のネットワークです。大規模災害で車を失い、移動に困難を抱える被災者の支援に向けて、平時から企業・団体の皆様、自治体の皆様と協定を結び、いざというときに迅速に、確実に、より大きな支援を実現します。

## 企業・団体



- 車・カー用品
- 運搬・整備・登録
- 活動資金支援

…etc.※

アライアンス加盟  
協定締結



## 日本カーシェアリング協会



- 全体調整事務局
- 申込受付対等
- 車両貸出

…etc.

パートナー登録  
協定締結



## 自治体



- 活動拠点の提供
- 地域との連携調整
- 活動に関する広報

…etc.※

車の無償貸出



平時からの連携  
で有事に備える



被災地支援団体



車を失った被災者



いざというときに  
迅速に支援実現

災害時に車で困らない社会の実現

SDGsへの貢献

11 住み続けられる  
まちづくりを



# モビリティ・レジリエンス・アライアンス参画状況



2021年7月28日時点のモビリティ・レジリエンス・アライアンスへの企業・団体、自治体の参画状況は以下のとおりです。今後、さらにアライアンスを広げ、災害時に車で困らない社会の実現へ貢献していきます。

## 企業・団体のアライアンス参画状況（五十音順）

- **アドバンスクラブ**※1
- **エーモン工業株式会社**
- **株式会社オートバックスセブン**
- **宮城県中古自動車販売協会・商工組合[JU宮城]**※1
- **一般社団法人日本カーシェアリング協会**※2
- **日本ミシュランタイヤ株式会社**
- **ルート産業株式会社**
- 複数の企業・団体と現在調整中です。
- 広報（会員へ車両整備・車両提供等の呼びかけ）における連携
- 車両・用品提供、寄付・募金活動、広報等における連携
- 車両提供、運搬、整備等における連携
- 車両提供における連携
- アライアンス事務局
- タイヤ提供における連携
- エンジンオイル提供等における連携

## 自治体とのパートナーシップ参画状況

- **石巻市** より参画いただく予定となっています。
- 複数の自治体と現在調整中です。

# モビリティ・レジリエンス・アライアンスの効果



被災者のみならず企業・団体、自治体のみならず、当協会のそれぞれが、モビリティ・レジリエンス・アライアンスの締結によってメリットや効果を得られます。

## ステークホルダ



車を失った被災者



被災地支援団体



企業・団体



自治体



当協会

日本カーシェアリング協会

## 従来の状況 (例)

- 車が使えずに片付け、行政手続き、生活再建に支障
- 支援活動に使用する車の不足で活動に支障
- 大規模災害からの復旧・復興に貢献したいが、うまく現地のニーズに沿った支援を行うのが難しい
- 災害時の車の被害への対応、被災者の移動支援を課題として認識するも、具体的な対策はとれていない
- 災害の度に企業・行政等との調整を行う必要があり、支援の着手に遅れが生じてしまうことも

## アライアンス効果

- 車の貸出を受け、いち早く生活再建に取り組むことができる
- 自治体からの広報等により、災害時の移動支援について情報を入手しやすくなる
- 自治体・当協会との連携によって、確実に被災地の復旧・復興に貢献できる
- 社会的責任を果たし、SDGs実現へ貢献する企業・団体としての評価を得られる
- 災害時に円滑・迅速に被災者支援に着手
- 多くの企業・団体の協力を得て、行政だけでは難しい幅広い支援を実行できる
- 平時からの備えにより迅速に支援に着手
- 当協会単独では困難な、災害時に車で困らない社会に実現に近づくことができる

# ブランドロゴ紹介

協力： **MRAL** Kenichi Masaki Media Lab. (東京学芸大学)



● ○  
会員のつながりと役割分担

∞  
連携による支援の拡大と仕組み化



連携することで支援が拡大し、持続可能な仕組みが構築され  
その上にクルマの支援を受ける被災者の笑顔が生まれるという願いがこめられています。

# モビリティ・レジリエンス・アライアンスに関するQ&A



モビリティ・レジリエンス・アライアンスに関する以下のような疑問についてお答えいたします。

**Q** なぜ「アライアンス」が必要なのですか？

**Q** アライアンス加盟団体・パートナー自治体には、具体的にどんなことが求められるのですか？

**Q** 発災後、どのような流れで支援を行いますか？

**Q** コロナ禍での支援活動にはどう対応しますか？

**Q** 被災された方等への車の貸出で事故が発生した場合にはどう対応しますか？

**Q** 今後、アライアンスをどのように発展させていきますか？

# モビリティ・レジリエンス・アライアンスに関するQ&A



Q

なぜ「アライアンス」が必要なのですか？

A

被災地への支援を「迅速に」「確実に」「より大きく」届けるためです。

- 当協会では、協力企業・団体のみなさまとともに多くの大規模災害で寄付車の貸出支援を行ってまいりました。ただし、これまでは、**災害が起こった後**に被災自治体や協力企業・団体のみなさまと都度調整して支援を開始していました。また、担当者が変わることで調整にかかる時間や内容が変わる可能性がありました。
- **平時からアライアンスを築く**ことで、被災地との調整や協力企業・団体・自治体との調整を迅速化し、「**迅速に**」・「**確実に**」支援を届けることが可能となります。
- アライアンスの枠組みがあることで、**新たな企業・団体が参画しやすくなり**、災害が起こった後**により大きな支援を被災地気**に提供できるようになります。

東日本大震災級の大规模災害への平時からの備えをつくるために必要です。

- 東日本大震災では、20万台以上もの車が被災したとされています。もしこれに類する規模の大規模災害が起こった場合、単独の企業・団体・自治体の力だけでは、支えを必要とする方に車を提供することが困難です。アライアンスで平時から支援体制を整え、次の大規模災害へ備えることが必要です。
- アライアンスとして情報発信を行うことで、災害時のクルマによる支援の重要性についての社会的認知を高め、協力の輪も広げていくことが重要と考えています。



# モビリティ・レジリエンス・アライアンスに関するQ&A



Q

アライアンス加盟団体・パートナー自治体には、具体的にどんなことが求められるのですか？

A

災害時の連携内容について取り決めを行い、当協会と協定締結いただきます。

加盟団体の企業・団体のみなさまは、車やカー用品の提供だけでなく、人的支援や情報発信も含め、できる範囲でご協力いただきます。

- 災害時の移動支援の仕組みづくりに向けては、車やカー用品提供のほか、車の整備や運搬・貸し出し実務のための人的協力、寄付・募金などによる金銭面の協力、駐車場や事務所等の場の提供、情報発信による協力など、様々なかたちでの協力の輪が広がっていくことが重要です。
- 企業・団体のみなさまには、それぞれの強みを活かした、できる範囲でのご協力をお願いしています。

パートナー自治体のみなさまは、特に活動場所の提供や、被災された方への広報での協力を中心に、できる範囲のご協力をお願いしています。

- 自治体のみなさまは、特に駐車場や車両貸し出し用のスペースといった活動場所の提供と、被災者の方々への支援の周知に向けた広報の面で、協力いただきます。
- その他、地元NPO、自動車関係団体、整備工場との橋渡しなどについても、できる範囲でご協力いただきます。



# モビリティ・レジリエンス・アライアンスに関するQ&A



Q

発災後、どのような流れで支援を行いますか？

A

**事務局（当協会）が被災地、支援を提供する企業・団体のみなさまと調整し、できる限り迅速に車の貸し出しに着手します。**

- 発災後、事務局（当協会）が被災自治体とのやりとりを通じて被災状況・車の支援ニーズを確認し、活動場所確保の依頼を行います。アライアンスにより自治体とあらかじめ連携がとれている場合、このステップを円滑に進めることができます。自治体からの場所の提供が難しい場合には、事務局が別途場所の確保に取り組みます。
- 活動場所を確保したのち、連携企業・団体のみなさまと調整し、現地へ車両・用品等を届け、貸し出し体制を整えます。**早ければ発災後 1 週間～10日程度で貸し出しを開始**します。その後は現地の状況を考慮しつつ支援を必要に応じ拡大していきます。

**他の支援団体とも連携・調整しながら、現地の状況に応じた支援を行います。**

- 被災地では、様々な支援団体が活動します。事務局（当協会）では、他団体と情報を共有したり、**他団体に活動のための車両を貸し出す**などして、相互に連携を図りながら支援を進めます。
- このほか、復旧の進展と現地のニーズにあわせ、**仮設住宅での車のシェア**の仕組みづくり、**生活再建を支援する低額でのカーリース**の提供等も行うことが可能です。

# モビリティ・レジリエンス・アライアンスに関するQ&A



Q

コロナ禍での支援活動にはどう対応しますか？

A

事務局（当協会）のガイドラインや現地方針に基づき感染症対策を徹底します。

- 令和2年7月豪雨における支援（活動地域：熊本県・大分県・福岡県・佐賀県）は、コロナ禍での支援活動となりました。事務局では、「**災害対応における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する方針**」（<https://www.japan-csa.org/blog/archives/1728>）を定め、感染症対策を徹底しながら支援にあたりました。
- このほか、**被災地におけるボランティア受け入れ方針を勘案**し、車両の運搬者を同一県内のボランティアもしくは当協会スタッフ・専門業者に限るなどの対応を講じました。
- 現在対応している令和3年7月豪雨支援においても同様に対応しております。

# モビリティ・レジリエンス・アライアンスに関するQ&A



Q

被災された方等への車の貸出で事故が発生した場合にはどう対応しますか？

A

自動車保険により対応します。なお、貸し出しは利用者と当協会の間での契約となっており、自治体等の協力団体のみなさまに責任が及ぶものではありません。

- 貸出車両には自動車保険がついています（対人：無制限／対物：無制限（免責額5万円）／人身傷害：3,000万円/人（乗車中のみ）／車両：なし）。ただし、補償額を超えたもの、免責金額及び保険約款の免責事項に該当する事故は、原則利用者負担となります。
- 貸し出しは、保険内容及び利用条件に同意いただいたうえで、利用者と当協会の間で契約を結び行います。自治体等の協力団体のみなさまに責任が及ぶものではありません。

Q

今後、アライアンスをどのように発展させていきますか？

A

災害時に車に困らない社会の実現に向けて、2025年には100団体規模にアライアンスを拡大することを目指します。

- 多様な企業・団体、自治体のみなさまとアライアンスを拡大していきたいと考えています。ご関心をお持ちただける方は当協会までお問い合わせください。

# モビリティ・レジリエンス・アライアンス拡大に向けて



当協会は、「災害時に車で困らない社会の実現」に向けた2025年時点のビジョンとして、以下の項目を掲げています。

## ビジョン2025

2025年までに到達を目指す将来像。

**東日本大震災規模の災害が起こった時でも、様々な連携を通じて、特に支えを必要とする人に車を提供できる仕組みがある**

当協会のビジョンにご賛同いただける企業・団体、自治体のみなさまは、ぜひ協定締結に向けて、ご相談させていただきます。お問い合わせお待ちしております。

**一般社団法人日本カーシェアリング協会**（担当 西條、吉澤）

TEL : 0225-22-1453

FAX : 0225-24-8601

MAIL : [info@japan-csa.org](mailto:info@japan-csa.org)